

太宰治「皮膚と心」論—女性の性的な身体をめぐって—

王盈文

應用日語學系

人文社會學院

ywang112@chu.edu.tw

摘要

本論は太宰治の中期作品「皮膚と心」を取り上げて、皮膚と結婚をめぐる諸要素の関連性とその意味を分析する。「皮膚と心」のヒロインは皮膚の異変をきっかけに、結婚、女学校の教育、科学博物館見学、化粧品、性病などに触れつつ心境を語り始めた。本論はこれらの要素に着目して、清潔な皮膚と結婚生活を中心に考察した。その結果、まず戦前の衛生関係の展示は女性の身体と生殖、性病の予防に重点を置いたことが分かった。次に、ヒロインの美意識は、当時の化粧品広告が時局に合わせて清潔な皮膚をセールスポイントにしたことに関わっているといえる。そして、性病と女性を結びつけるというヒロインの発想は純潔を女性の責務とする意識が働いていると考えられる。まとめると、「皮膚と心」は女性の性的な身体をテーマにした小説である。

關鍵字：女性、衛生、性的な身体